平成 26 年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果分析

第 2 学年

東久留米市立南中学校

（　数 学 科　）

◇結果分析Ⅰ

＜正答数分布から＞

結果として、18 問―23 問正答数の割合が東京都よりも上回った。しかし、24 問―29 問正答数の割合は東京都の正答数を下回る結果となった。

＜到達目標値達成の生徒の割合から＞

到達目標値である22 問に達成した生徒の割合が 28.5 ポイントであり、東京都の目標値達成の割合を 5.4 ポイント上回った。授業内で解答後の見直しや検算を徹底したことが結果につながったと思われる。

◇結果分析Ⅱ

＜観点別結果から＞

・平成 26 年度の結果、主として見方や考え方の平均正答率が東京都の平均正答率を８．４ポイント上回った。また、技能、知識・理解もそれぞれ東京都の平均正答率を上回っている。しかし、関心・意欲・態度の観点が東京都の平均正答率を０．３ポイント下回る結果となった。
・授業内で基礎的な問題を重点的に行い、系統性を確認したことが結果につながったと思われる。

＜領域別結果から＞

・取り出す力、読み取る力、解決する力の３つの内容について、いずれも東京都の平均正答率を上回っている。なかでも、読み取る力は１０ポイント高かった。

◇課題

＜結果分析Ⅰから＞

○正規分布よりも右側に偏っている傾向がある。そのため、数学への苦手意識を持った生徒の正答数が下がると分布が二極化してしまう可能性がある。

＜結果分析Ⅱから＞

○図形の名称や計量に対する知識が十分でないものが少数いる。
○問いの文章を読み解き、理解する力が弱い傾向がある。
○知識の定着に一定の勉強量と時間経過が必要な傾向がある。
○公式や授業での理解度はあるものの、応用や発展的な問題には苦手意識をもつ傾向がある。

◇改善に向けた取り組み

＜結果分析Ⅰから＞

・授業の導入で、前時の授業内容の復習を必ず行い、基礎・基本の定着を図る。
・グループワークやペアワーク学習を取り入れ、話し合いや教え合いを通して理解を進める。
・少人数授業を通して、きめ細やかな指導によって個々の能力の伸長を図る。

＜結果分析Ⅱから＞

・定期考査の前には復習問題を実施し、生徒の意欲を高める。
・家庭学習の習慣を付けるために、ワークやプリントなどを提出させ、点検する。
・放課後や長期休業時に補習授業を行い、基礎力の充実を図る。
・アンケート結果を踏まえ、さらに指導の工夫をし、少しでも数学への意欲を持った生徒を増やす。